

はくとと はくと

Shinkomonji Hospital

地域に貢献する

内科診療を目指して

遠山医師 蒲池医師 戸田医師 富永医師

第42回 学術講演会

講演「医療被曝の現状と提言に向けた当院の取り組み」

新小文字病院医療技術部長兼放射線科技師長 茂呂田 孝一

特別講演「眠くならない被曝の話 ～実践的な従事者被曝防護～」

関西医科大学 附属滝井病院 放射線科学講座 助教 米虫 敦先生

2016年の
年頭にあって

院長
甲斐秀信

トピックス

第25回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
施設参加型研修・褥瘡予防と早期発見・対処法

かかりつけ医紹介⑩

ごとうクリニック

萩ヶ丘校区の史跡

「淡島神社」～「柳の御所」

新小文字健康フェスタ2015

第6回 新小文字 健康フェスタ2015



2016年の 年頭にあたって

良い病院を作ろう！

「良い病院を作ろう！」これは私が、よく職員たちに発している合言葉です。

では、「良い病院」とはどんな病院なのでしょう。

まず一つには、当然のことながら質の高い医療を提供する病院であることだと思います。質の高い医療とは、たとえば移植医療や再生医療のような最先端の医療を意味するのではなく、こ

く一般の方々が求めておられる普通の医療を、遅滞なく、正確に提供することであると考えています。そのためには、私たちが常に頭の中の知識や手の技術を研

ぎ澄まし、新鮮にしておかなければなりません。

二つ目には、病んだ方々に心の安らぎを感じていただける病院であることだと思います。そのためには、患者さんの訴えや悩みに耳を傾け、それに共感する心をすべての職員が持つていなければなりません。マニュアルで動くのではなく、真心で動くことのできる職員でなければなりません。

三つ目には、地域の医療機関や住民の皆様にも頼られる病院でなければなりません。病気に縁のない健康な方々も、日々の暮らしに安心があるのは近くに新

小文字病院があるからだ、と感じていただけるような病院でありたい。そのためには、地域に完全にかかれた病院でなければなりません。人々の声を聴き、この

地域の医療の姿がどのようにあるべきかをいつも考え続け、地域の皆さん、各医療施設、福祉や介護施設、行政諸機関など、あらゆる方々と手を携える病院でなければなりません。

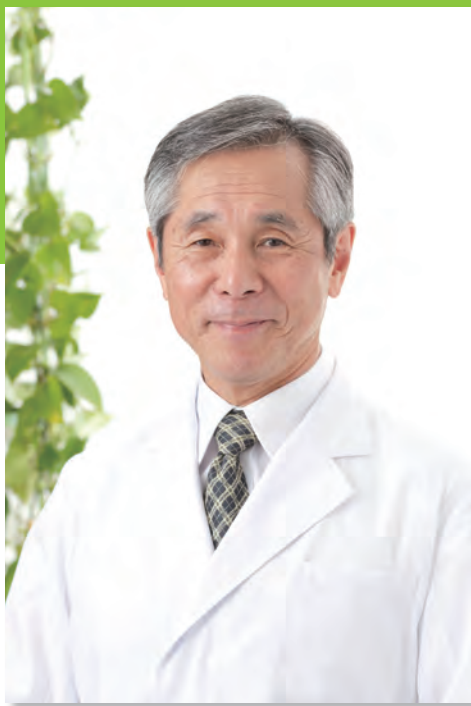
四つ目には、働く職員が誇りと遣り甲斐を常に感じる事ができる病院でなければなりません。病院の質は何といっても職員の総合力です。どの部署の職員であれ、愛する病院のため、問題解決に自主的に取り組み、自律的に研究する。それらの成果を擦り合わせてもつと良い病院に育てていく、そんな自由で豊かな発想に満ちた病院でありたいものです。

五つ目は、常に時の流れに敏感で、今何が一番求められている



かを考え、その時代に最も即した病院のあり方を形作ることができる病院でありたいと考えています。急速に進む超高齢化社会を引き合いに出すまでもなく、病院に求められている医療の内容も変化してきています。大きな時代のうねりの中でも、変わることを恐れず、正しい方向に舵を取ることが出来るチャレンジャーであり続けたい。

今も、間違いなく新小文字病院は、「良い病院」として成長しているところです。しかし、決して独りよがりの存在であってはなりません。人々のための病院、地域社会のための病院として成長していきます。みなさま、どうぞ新小文字病院に注目してください。



院長 甲斐 秀信



地域に貢献する

内科診療を目指して



当院の内科では循環器、消化器をはじめ多岐にわたる疾患を幅広く診療しております。また急性期の状態から慢性期の状態まで病気に問わず対応しております。現在、部長を筆頭に4人の医師で外来と入院の診療をしております。

例えば、健診で便潜血を指摘された方に外来で対応し診断・治療につなげたり、救急車で運ばれてきた心筋梗塞の方を緊急

治療し救命したりとその振れ幅は非常に大きいです。

外来には1日平均70名の患者さんが来られ、担当する病棟は4階5階の一部と8階で入院患者さんも常時60名以上はおられるような忙しい科です。

また、救急部の一部も担っておりまさに入口から出口まで患者さんに関わっております。

さらに、病院の枠を超えて門司区全体で患者さんを診ていくことを考え、地域の開業医の先生方と積極的な連携を図ろうと動

いております。開業医の先生方が診ている患者さんの入院が必要となるケースや高度な検査が必要となった場合に受け入れたり、逆に病状の安定している患者さんをお近くの開業医の先生にご紹介したりしております。どちらの病院にかかっていても

状態が悪くなったら新小文字病院を受診できる、という状態を作りたいです。

当院を他院と比較した際の特徴は、その迅速な対応にあると考えております。放射線科や臨床検査科、臨床工学科の協力もあつてCT検査や胃力メラなどは出来るだけ同日のうちに施行できるようにしております。また、緊急心臓カテーテル検査や緊急内視鏡検査なども積極的に行っております。

内科ではありませんが、外傷による出血に対する血管内止血術も当院では私たちが行っております。

今後も地域に貢献できる病院として、患者さんやご家族、施設の方々、開業医の先生方に信頼される科としてチーム二丸となって頑張っていきたいと思っております。

内科医師 富永 尚樹

内科部長 遠山 奈雅博

内科医長 蒲池 良平

内科医師 副医局長 戸田 未来雄



講演

「医療被曝の現状と提言に向けた当院の取り組み」

医療技術部長兼放射線科技師長 茂呂田 孝一

特別講演

「眠くならない被曝の話」

実践的な従事者被曝防護」

関西医科大学付属滝井病院放射線科学講座 助教 米虫 敦先生

右記のテーマで、講演と特別講演会(新小文字病院主催)および懇親会が11月10日、ステーションホテル小倉で開かれました。

講演会では当院の茂呂田部長が線量限度や当院が現在、取り組んでいる被曝軽減に向けた臨床研究を発表。また、放射線の取り扱いに詳しい米虫敦先生が放射線治療の最前線で医療従事者が術時に被曝を被る危険性の存在や注意事項について、スライドを使って分かりやすく解説し、医療機関・施設の関係者のほか当院のスタッフら約300人が熱心に耳を傾けました。



講演

放射線検査は病気の発見や治療において多大な貢献をしている一方で放射線被曝に対する負のイメージも存在しています。東日本大震災に伴う放射線被害が代表的なものです。放射線障害の特徴は、100ミリシーベルトという一定の線量を越えたら障害が起きる可能性があること

視の情報や被曝の総線量も把握できます。こうした様々な情報を適切に使って管理することが重要です。

もう一つは血管撮影での患者被曝の実測をしています。このような研究をしていたら実測の重要性というものが分かります。放射線障害の被曝低減に向けた立案ができることの話もされました。

特別講演

講演では医療行為中の被曝線量を原発事故に例えてわかり易く教えて頂きました(例えばCT撮影中に患者さんの傍に立つとマルチドワンした原子炉に手をかざす程度被曝するなど)。頻回に放射線に接する医療従事者は、手技中には正確な知識を身につけて注意を怠らないようにしなければ健康被害(白内障や皮膚がん)を被る可能性がある高線量を被曝することを強調されていました。

放射線防護とは放射線から避難すること、放射線を遮断することが中心になります。先ず避難については、放射線には直接線と散乱線があり、とくに後方散乱線の性質を理解し、適切に放射線から離れることが大切であることを教えて頂きました。具体的には①透視野に自分の体を入れない②透視中は室外に出て、室内に居る場合は距離をとる。③投薬など患者さんに処置をする際は透視を切る。④被曝が少ない立ち位置を理

解し実践することを絶対に守らなければなりません。



次に遮断については防護板、防護カーテン、防護服(メガネ、顎あて、ベスト、手袋など)を適切に使用し、とくに防護服が壊れないように収納とメンテナンスを行わなければなりません。ほかに被曝量を測定する方法を学び、正確な被曝量を知ることが大切です。

患者さんには非常に恩恵があり、なくなれば現代医療が成立しないほど重要な放射線ですが、日常的に使用する立場の我々はその弊害もよく理解しなければならぬことを学ばせて頂きました。

第25回

日本呼吸ケア・リハビリテーション学会

第25回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会が東京、ベイ舞浜ホテルクラブリゾートで開催されました。私は「動作指導により呼吸苦が改善し自宅退院した呼吸不全患者への作業療法」という演題で発表しました。

慢性閉塞性肺疾患(COPD)は、トイレ・入浴・更衣・歩行などの動作中の呼吸時に、二酸化炭素が排出しにくくなるのが原因で息苦しくなり、介護を要してしまいます。今回の発表内容は、それらの動作を工夫練習することで日常生活での息苦しさが改善でき、患者様ご自身で生活の活動範囲を広げることができたというものでした。



初めての学会参加のため緊張もありましたが、教育講演「人工呼吸器離脱に関する基本と最新知見」やネーゼルハイフロー(経鼻カニューラ)で高濃度酸素の投与が可能などの研究等を知る良い機会となりました。また、ICUからリハビリテーションを積極的に行うことの重要性を訴える発表が多くありました。当院も内科、外科を問わずICUから介入することが多くありますので、今回知り得た「日本版集中治療室における成人重症患者に対する痛み不穏せん妄管理のための臨床ガイドライン」等を用い、患者様の回復のために、多職種連携でのリハビリテーションに取り入れ、知識を活かしていきたいと思えます。

施設参加型研修

トピックス I

昨年、褥瘡関係の研修会を2回程実施しましたが2回とも参加されている方が多く驚きました。後期高齢者の急増や医療の進歩によって、在宅や施設でも褥瘡発生リスクの高い方の療養が多くなっています。そのため、褥瘡チーム医療の範囲は院内だけでなく、地域医療にまで広がっています。当院でも、より多くの方が専門的で質の高いケアを提供できますように、院外の方への研修会を開催してきました。今回、その一助に私も参加させていただきました。関係者の皆様に感謝いたします。

皮膚排泄ケア認定看護師としてしばしば勉強会を開催していますが、人に講義を通して知識を伝えるのは難しく毎回、試行錯誤と反省の繰り返しですが、いつも皆さんが真剣に聞き入って、多くの質問を積極的にして下さるので少しずつ講義の内容も進歩していると確信しています。

今回のテーマは「褥瘡予防と早期発見・対処法」と少し広いテーマでしたが、1時間で



と短い時間では若干駆け足になってしまいましたが、参加者の皆さんから高評価を多く頂きましたので、今後、今後、「拘縮のある方」や「ターミナル期の方のケア」、「ポジショニングの仕方の実技」、「石膏の説明と陰圧閉鎖療法」といった、具体的な事案についてのご質問を頂きましたので、次回の研修会では実技の時間も確保したいと思っております。

今後、ご要望がありましたら是非ご参加ください。



萩ヶ丘校区

少名比古那神(すくなひこなのかみ)(少彦名命)。神格として、穀物神・医薬神・酒造神・温泉神などと伝えられています。神話によると少名比古那神は、海の彼方の



淡島神社

安産・子授け・良縁・厄除け・万病平癒をはじめ、女性の幸福を御守護する神社として有名な門司区奥田の淡島神社。御祭神は、



奥田にある「淡島神社」は、人皇第七十九代六条天皇の御代(一六五年〜一六八八年在位)に紀国加太の「淡嶋神社」を勧請(かんじょう)したと伝えられています。その由来から、女性の幸を守る神さまとして敬まわれ、多くの参拝者で賑わいを見せています。

淡島さまと親しみをこめて呼ばれる淡島神社は、天照大神の女(むすめ)(淡島さま)が紀州の加太に祀(まつ)られた事から世に広まりました。

常世の国から光輝きながらやって来て、大国主神(大国主命)と共に、日本の国土建設に携わり、諸病を治す薬方を定められ、同時に裁縫の道を広め、酒造り、温泉の神としても知られております。

ここに仮の御所(内裏)を急造し、「柳の御所」と呼ばれました。



柳の御所

その後、一の谷、屋島と合戦を繰り返す。源平最後の「壇の浦の戦」が関門海峡で展開され、幼帝は二位の尼に抱かれ「波の下にも都のさぶらふぞ」と海峡の底に沈み、平家は滅亡するのです。時に元暦二年(寿永四年一八八五年)三月の事です。この御所(小笠原藩制時代に大里の字を当てる)と通称されて御所・梅ノ木小路・北方・弓場・的場・矢倉・蔵住・風呂等の町名が残りました。戸上神社御旅所境内には「安徳帝柳御所」の碑と、都を偲んで詠まれた公達(平忠度・時忠・経正)の歌碑三基が建てられております。

源氏に都を追われた平家一門は、安徳天皇を奉じ西国に逃れます。太宰府を経て豊前国柳ヶ浦に辿り着いたのが寿永二年(一一八三年)秋のことでした。この柳ヶ浦こそ現在の大里の旧名です。

柳の御所(門司区大里戸ノ上1丁目11番)は、源氏に都を追われた平家一門は、安徳天皇を奉じ西国に逃れます。太宰府を経て豊前国柳ヶ浦に辿り着いたのが寿永二年(一一八三年)秋のことでした。この柳ヶ浦こそ現在の大里の旧名です。



淡島神社への Access map



柳の御所への Access map



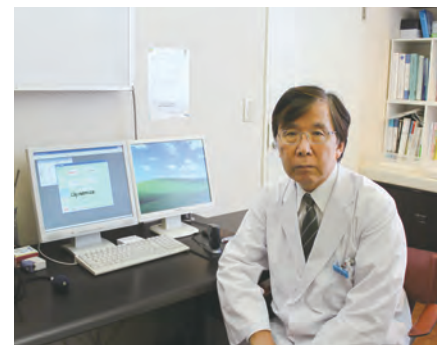
ごとうクリニック

清潔な施設で丁寧な診療をするクリニック

～かかりつけ医紹介⑩～

クリニックの特徴・特色を教えてください

当院の特徴の一つは、内科クリニックなのに予約制であることです。診察時間は、一人につき、10分ずつ確保しています。外来に人が沢山いると、気になつて診療に専念できません。そこで、開院当初から予約制にしました。緊急の方や新患については、すでに待合室にいる方の次に診察するようにしています。



二つ目の特徴は、大抵の緊急検査が出来ることです。CRP検査、急性肺炎の検査、心筋酵素検査のほか、糖尿病のHbA1cも15分以内に結果が出ます。病院と違い、医学生は、咳や頭痛、腹痛の患者さんを自分のところで治療できるか、あるいは病院に依頼するかを1時間以内で決めなければいけません。そんな時に緊急検査で病気の予測がつけば、判断が正確になります。

新小文字病院との連携について

当院では、胃カメラやCT、MRIなどの検査と入院は新小文字病院にお願いすることが多く、特に、内科、胸部外科、脳神経外科、形成外科のドクターとスタッフには大変お世話になっております。また、今までに、休日や夜間を問わず急患を依頼した時に、新小文字病院から断られたことがありません。往診先の特別養護老人ホームの急患も、重度の認知症があるにもかかわらず受け入れて頂き、施設のスタッフ共々、大変感謝しております。

今後の目標

刀鍛冶や陶工の方は、年を重ねるほど力量が上がります。医療の専門を生み出します。医療の専



門家である私も、1年ごとに臨床経験の量と知識を増やし、いつまでも患者さんから信頼してもらえ医療を提供したいと考えています。福沢諭吉の医学の師である緒方洪庵先生が翻訳した「医戒」という本の最初に、「病氣の人を見てこれを救いたい」という気持ちが医療の根本である」と書いてあります。この言葉を忘れずに日々の診療を続けることが私の理想です。

趣味や休日の過ごし方について

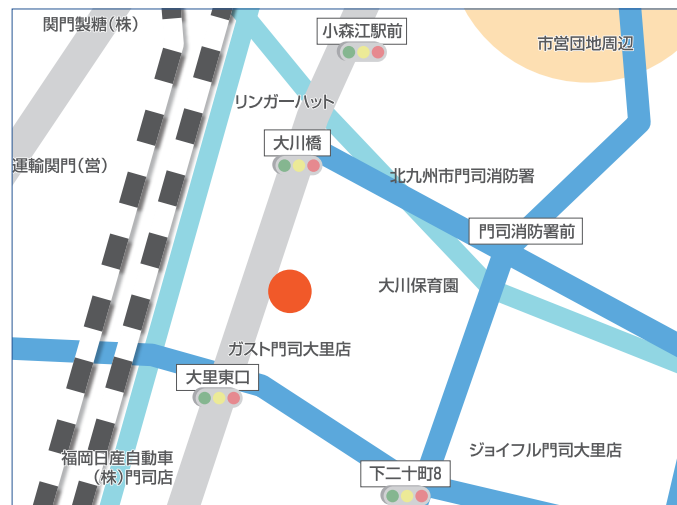
休日には、下関市菊川の温泉プールで泳いだり、関門トンネル内を走っています。また、平日の夜は数学の理論を考えてストレスを発散しています。今までに、物理数学の本を、英語版も合わせて3冊出版しています。



診察時間	月	火	水	木	金	土
午前9:00~午後1:00	○	○	○	○	○	○
午後2:00~6:00	○	○	○	×	○	×

※日曜日と祝日は休診です。

ごとうクリニック
〒800-0028 福岡県北九州市門司区下二十町2-30-2
TEL 093-382-0510
FAX 093-382-0500



基本方針

高度医療

学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。

総合医療

患者様と医療情報を共有し、急性期治療から早期リハビリ、在宅医療まで一貫した、患者様のニーズに沿った安全で安心できるチーム医療を提供します。

地域医療

地域の医療・福祉施設と密接な連携を図り、いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域医療の中核病院を目指します。

患者様の権利

1. 平等な治療を受ける権利

患者様は、その社会的・経済的地位、国籍、人種、宗教、年齢、病気の種類によって差別されずに、平等な治療を受ける権利を持っています。

2. 治療を自己決定できる権利

患者様は、医師による明確でわかりやすい言葉で十分な説明を受けた後で、治療を受ける権利、あるいは治療を受けることを拒む権利があります。

3. 情報を知る権利

患者様は、医師による診断・治療、または変わり得る治療方法・予後、今後予測される問題に関して知る権利を持っています。

4. セカンドオピニオンを受ける権利とプライバシーが守られる権利

患者様は、自分の医療内容に対して、医師と共同して選択する権利、他の医師からの意見・相談を得る権利、いかなる場合であっても人格的に扱われ、患者様自身の診療に関する全てのプライバシーに関して、万全の配慮を受ける権利を持っています。

5. 相談する権利

患者様は、十分な情報を得、利用可能な財政的支援について相談する権利を持っています。

6. 良質な医療を速やかに受ける権利

患者様は、効果的医療行為を速やかに行われることを要求する権利、継続的に支持、検討された質の高い医療を受ける権利を持っています。

トピックスⅡ 第6回 新小文字健康フェスタ 2015

第6回新小文字健康フェスタ 2015を11月1日に当院第2駐車場で開催しました。各校区自治会の会長や門司消防署長、中村・奥村両市議の来賓の方をはじめ、自治会や地域の方々、協賛を頂きました多くの企業のお陰をもちまして盛況のうちに幕を閉じることができました。

前日までの予報では、雨がちらつくような天気予想されましたが、当日は曇天ではあったものの雨が降ることはなく、過去最多ではないかと思われる来場者で賑わい、地域の皆様によるステージでの歌や踊りには、楽しいひと時と感動を与えられました。また、食べ物ブースや健康ブース、はしご車や白バイの乗車体験、今回新たに企画したお子様向けのチワワドームやキタキウマンの出演等、大勢の来場者が列を作っていた。ただ、光景を催された喜びとやりがいを感じるとともに、協力頂いた方々への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

来年は、餅の配布に長時間お待ちいただく等の課題を改善し、スムーズな運営と更に多くの来場者に楽しめと感動を与えられるような新小文字健康フェスタにつなげていきたいと思っております。

最後に、無事終了することができましたのは、皆様方の温かいご支援、ご指導の賜物と深く感謝いたしております。誠に有難うございました。

今後の開催予定
研修会

実施予定日	研修テーマ	講師
2月1日(月)	対象者の動きを引き出す 移乗動作	作業療法士
3月1日(火)	褥瘡予防の介助ポイント ～実践!!体位交換と移乗～	理学療法士

診療科目ご案内

内科・循環器内科・消化器内科
呼吸器内科・外科・呼吸器外科
整形外科・リウマチ科・形成外科
皮膚科・泌尿器科・放射線科
脳神経外科・脊髄脊椎外科・救急科
病理診断科・リハビリテーション科・麻酔科



Access map



杜ノ木一丁目バス停留所から徒歩1分

駐車場のご案内

ご来院の際は400台
収容可能な駐車場をご利用ください。

- 外来者 / 手術付添 / お見舞い (家族・親戚)
4時間まで100円・以降1時間毎に200円
- 業者・お見舞い (一般)
1時間まで100円・以降1時間毎に200円

新小文字病院を
身近に感じる広報誌

Vol.36

2016年1月15日発行
企画：社会医療法人財団池友会
新小文字病院 広報委員会
〒800-0057
北九州市門司区大里新町 2-5
TEL：093-391-1001
FAX：093-391-7001
E-mail：info@shinkomonji-hp.jp
http://www.shinkomonji-hp.jp

新小文字病院

検索

Design

NPO 法人列島会
創造館クリエイティブハウス 印刷事業部